

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	ブランド産地推進事業(農業)		担当部署	経済建設部 経済局 農林水産課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市農林水産振興補助金交付要綱 「飛び出す」ブランド産地育成事業要綱		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり	事業 期間	開始	平成	16年度
政策(中項目)	1	豊かで活力あふれるまち なんと			終期	未定
(小項目)						
施策	3	農業の振興				
基本事業	1	農業経営の安定化とブランド化の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内農協・農業者団体						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	農協・農業者団体、関係機関等と連携しながら生産・流通・販売振興に継続的に取り組み、各品目ごとに生産者の所得を確保していくことで、本市農産物の総合ブランド化を図る。また、市内における産直等を支援することで、小規模農家やブランド品目以外の農産物、加工品等についても販路拡大を図る。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	農業協同組合・鳴門藍住農業支援センター等の関係機関と連携しながら、鳴門ブランドを確立するため生産から販売まで戦略的な取り組みを行い、農産物の有利販売や認知度向上を図る。ブランド産地に甚大な被害を及ぼしている外来生物対策を実施する。公設市場を活用した地元食材のPR等に取り組む。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		農産物品目取り組み数	5	5	5	5	5	品目

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	全国に向け確固たる鳴門ブランド農産物を確立するため、①農協と連携した農産物のPR②市内産直、ブランド化イベント(鳴門らっきよの花祭り等)への開催支援に取り組んだ。れんこん食害対策によるブランド産地の生産振興を図った。					
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
	指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 農産物品目取り組み数	5	5	5	5		件
	2 産直・ブランド化イベントへの支援	3	3	3	3		件
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	農産物品目取り組み数	5	5	—	—	—	品目
	目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	1,900	0	0	350	2,250
		全体予算額	0	1,015	0	0	310	1,325
		決算額	0	1,015	0	0	310	1,325
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,517千円/人)	臨時職員(2,012千円/人)	総人件費		総事業費		
	0.1	0.0	652		1,977			

【事務事業名:ブランド産地推進事業(農業)】

【鳴門市行政評価】

(千円)

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	1,508	1,325	2,390	2,390	2,390
	うち一般財源	313	310	350	350	350
	人件費	652	652	652	652	652
	総事業費	2,160	1,977	3,042	3,042	3,042

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		全国有数の複数品目のブランド産地の維持発展や優位販売に効果があった。 農協や宮農意欲の高い生産者の主体的取り組みを支援することで、実需に即した効果的な事業運用が図られている。
	効率性	A:効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	農産物品目取り組み数		農産物品目取り組み数の目標に到達した。
	目標	5	品目	
	実績	5	品目	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		主要ブランド農産品目及び市内全ての農協での取り組みがあることから、A評価としたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	更なる農産物のブランド化を図っていくためには、農協等の生産者団体をはじめ、県市関係機関の協力体制や連携強化による事務事業の効率性を高めていくことが重要である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	農協・生産者等と連携し、主要消費地や市内でのPRをはじめ、生産振興策に取り組む。			
	H28年度	農協・生産者等と連携し、主要消費地や市内でのPRをはじめ、生産振興策に取り組む。			